

## 《関西サロン2010年9月例会報告》

【日 時】2010年9月8日（水）19：00～21：00

【会 場】社団法人大阪府サッカー協会 4階会議室

【テーマ】アフリカでのワールドカップは何をもたらしたか

【演 者】宇都宮 徹壺

【参加者（会員）9名】

★赤尾修（アミティエ・スポーツクラブ）宇都宮徹壺（※演者）賀川浩（シックス）高  
原渉（宝塚FC）根本いづみ（フリーライター）福西達男（ボルベニラ樫原）本多克己（シ  
ックス）松岡耕自（立命館大学）宮川淑人（枚方FC）

【参加者（未会員）19名】

飯尾健、池田義文（意岐部FC）伊田翔平（京都大学）井戸敏文（ウ・ィッセル神戸）勝  
山和彦（カステロ）草葉達也（フリーライター）岸上友美、河野博文（ロンヨンジャパ  
ン）下田邦彦、新谷智庸、鈴木幸隆、砂田純二（トス・イレブン）中谷文一郎、長崎あ  
や（MIO サポーターズクラブ）西垣内渉（読売TV）藤井正美、ベン・メイブリー（フ  
リーライター）森田洋行、安井祥人（読売TV）

【報告書作成者】松岡耕自

注1）★は2010年度会員名簿完成後の新会員（名簿には掲載されていない）

注2）参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩  
書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、  
参加者の立場を規定するものではありません。

\*\*\*\*\*

# アフリカでのワールドカップは 何をもたらしたか

宇都宮 徹壺

\*\*\*\*\*

こんばんは、宇都宮徹壺と申します。

関西サロンからは以前からお誘いがあったのですが、延び延びとなっていました。前夜の  
代表戦（KIRIN CHALLENGE CUP 2010 日本 vs. グアテマラ、2010/09/07@長居スタジ  
ウム）後に大阪で一泊し、本日を迎えました。私は地方の取材もよくしていますが、関西

の方とサッカーの話をじっくりとする機会は少なく、ゆっくりとお話ができたらと思っています。

今日のサロンのテーマは、2010 FIFA ワールドカップ 南アフリカ（以下、「ワールドカップ」）が終わり二ヶ月たちますが、そのワールドカップの話です。とは言え、今日のテーマは「なぜ、日本代表は勝てたのか」とか「スペイン代表はここが凄い」ではありません。そのテーマは既に他の方が話され書かれていますから、今夜は私の得意分野である「その土地、またその土地に暮らす人とサッカー」を念頭に置きながら取材した、「開催国 南アフリカ」に焦点を当てたいと思います。

今大会は、前大会ドイツに比べて、日本から南アフリカに行かれた方が非常に少なかった。同時に、スタジアム内の試合の映像は日本で放送されても、ピッチ外の状況は伝わりにくく、日本国内だけでは分かりづらい大会でした。私も大会終了後に帰国し、NHK - BS で試合の再放送を見たんですが、映像を見ながら「あれっ」と不思議な感覚に陥りました。間違いなく南アフリカで行われた試合の映像なんですが、その映像からは全く南アフリカらしさを感じられなかった。これは、昨年アブダビで開催された FIFA クラブワールドカップ 2009 UAE も同様で、テレビの映像や音声がよりクリアになればなるほど、どんどんと映像がヴァーチャル化し、どこでの大会かわかりづらくなりつつあるように感じます。本来感じるはずのその土地の匂いやざわめきまでもが脱色、脱臭されたように感じられて、凄い違和感を覚えました。

南アフリカで行われた今大会は日本人の渡航者の方は少ない大会で、日本国内において「南アフリカで行われたワールドカップ」を考える機会は、特に現地を訪問されていない方は少なかったでしょうか。

そこで今回は、私は南アフリカに四回行き、現地の状況を取材し、写真に収めていますので、その写真や映像を使って南アフリカを考えていただきたいと思います。

ここで、南アフリカ現地で放送されていた、試合前のオープニングのビデオが流された。映像では人間に代わり、ゾウやライオン、チーターなどのアフリカに在るであろう動物がサッカーをしている。

今見た映像は、南アフリカ現地のテレビ中継のオープニングです。

おそらく日本では「タマシイレボリューション」などが放送されていたと思いますが、私にとっての南アフリカ大会でのオープニング映像は、この南アフリカで見た動物の映像です。それぞれ動物や鳥、昆虫などの特徴を活かしつつ、サッカーやワールドカップの素晴らしさを表現しています。誰がこれを制作したか知りませんが、想像するにアフリカ出身でない、恐らくヨーロッパやアメリカなどの映像ディレクターでしょう。我々を含めた先進国の人間がイメージするアフリカは、まずは野生の動物で、その野生動物を CG 上でサッカーさせ、具現化させたのがこのオープニング映像だと思います。

つまり、この映像の面白さとは、単に動物にサッカーをさせたことではなく、アフリカに住んでいない先進国の人々がアフリカに抱くステレオタイプのなアフリカのイメージや見方を如実に表していることはないでしょうか。



さて、ここでアフリカで行われたワールドカップについて考えてみたいと思います。

このポスターは、皆さんご存知の今大会のオフィシャルロゴです。原色をふんだんに使い、黒人がボールを蹴っているポスターで、何から何までアフリカらしさを強調して表現しています。

改めて、アフリカって何だろうと考えてみたいと思います。

漠然とアフリカ？と問われると何をイメージしますか？この会場内でアフリカに行かれた方はおられますか？（約 15 名の参加者の中）3 名ですか、ありがとうございます。アフリカは広い大陸で、例えば北はモロッコやチュニジア、アルジェリアなどのイスラム圏からなるマグレブ諸国、そして、サハラ砂漠を南下すれば肌の黒い人々が暮らすアフリカと、それぞれ違うアフリカのイメージがあります。全体で見れば、幾つかアフリカをイメージできるものはあります。

まずは、野生の動物です。写真では、車道を悠々とライオンが歩き、車は止められたままで、まさに「野生の王国 アフリカ」をイメージできます。

一方で、犯罪が多いというイメージがあります。南アフリカは犯罪が多発する危険な国なので、これまで毎回ワールドカップを観戦に行っていた方も今回は断念した方も実際におられました。

また、衛生状態が良くない、未舗装の道路、二時間三時間歩いて水を汲みに行き水を飲む、インフラが未整備、子供たちが飢えているイメージかもしれません。また常に政情不安定で戦争をやっているイメージ。また、HIV、エイズの問題です。

これだけ並べただけでも、我々先進国がイメージするアフリカはネガティブなイメージが非常に多い。アフリカでワールドカップを行う際に、今挙げたネガティブなイメージが先入観としてあり、渡航を尻込みした方は多いと思いますし、当初は私もそうでした。ネガティブなイメージが頭をよぎり、行くのは嫌だと感じることもありました。

では実際のアフリカは様々な国がありますが、その中で南アフリカとはどのような国かという、例えば非常にモダンなショッピングセンターがあり、店内は広く、商品も豊富で、多くの買い物客でにぎわい、勿論治安も確保されています。

また、南アフリカはリゾート地としても有名で、例えば日本代表が宿泊していたジョージはゴルフリゾートで、そのリゾート地の中の宿泊施設で日本代表は過ごしていました。

また、南アフリカは食事がおいしく、食材も豊富で、しかも安い。南アフリカ滞在中に様々

なレストランに入りましたが基本的に外れはなく、リーズナブルな価格で店内も清潔で美味しかったです。勿論、そうではないきたない所もありましたが、渡航前のアフリカのイメージを覆す南アフリカを見て経験し、そのイメージギャップに驚きました。初めて南アフリカを訪れる多くの方は、このイメージギャップに驚かれます。例えば東ヨーロッパの国々と比べると、南アフリカの都市整備は進みインフラも充実しており、ここは本当にアフリカなのかと驚かされる事ばかりでした。

さて、今回のテーマはアフリカ開催のワールドカップが開催国南アフリカやアフリカに何をもたらしたのかについて考えたいと思います。ここには、二つの意味があると思います。第一には、今回のワールドカップが開催国南アフリカ、また開催したアフリカに何をもたらした／されたのかという点です。第二には、そこに参加した選手やサポーター、ジャーナリスト、関係者などの現地でワールドカップに参加した海外から来た人々に何をもたらしたのか、という二つの点について様々な角度から考えてみたいと思います。

まずは南アフリカの現在を知る為に、歴史を見てみたいと思います。

南アフリカの歴史を大きく分けると「植民地期」「人種隔離（アパルトヘイト）期」「人種（国民）統合期」の三つに分かれると思います。

一番初めにアフリカ大陸の最南端にやってきたのは、オランダ人です(1652年)。オランダの東インド会社はヨーロッパから喜望峰を經由しインドシナ周辺への航路を通るには、幾つかの中継補給地が必要です。今のケープタウン周辺の最南端の地域に補給のために立ち寄る必要があった。そこで、オランダ人達は地元の人々と水や野菜、肉などの補給物資を取引したいと考えたのですが、当時その地域で暮らしていたコイ族やサン族の人々は狩猟し移動する人々で、物資を備蓄して生活する人々ではなく、交易が成り立たなかった。その為、自分たちで補給地を整備する必要が生じ、オランダ本国から人々が移民して入植地へと発展します。

その後、イギリスが国力をつけ、オランダに変わり大量の移民を喜望峰に送り、港湾を整備し、地域を支配するようになる(1795年)。その為、先に入植していたオランダ人達は内陸へと追いやられ、その頃には自らを「アフリカーナ」、つまりアフリカ生まれのオランダ人としてアイデンティティを持つようになる。そのアフリカーナの新たな土地を求めて内陸奥地への植民地開発を「グレートトレッキング」(1835年)と呼びますが、今大会の開催地の一つであり日本代表も試合をしたブルームフォンテンはそのアフリカーナたちが建設した街(1856年)の一つでした。当然、内陸へ進むにつれて原住民とも戦わなければなりません。例えば、ズールー族は戦闘能力もあり国家としてのまとまりもあった。このズールー族はアフリカーナと激闘し、またその後入植してきたイギリスにも簡単に屈服しません。この事に関して、後藤健生さんが本に書かれていて、このズールー族は南アフリカ北

部から南下してきた民族で、そこで欧州列強国と出会った。もし、このズールー族の南下がなければ、南アフリカはすぐにヨーロッパ化し、アメリカやオーストラリアのようになっていたのではないか。ズールー族のような原住民たちの激しい抵抗によって、南アフリカは多様な民族が混在する国になったのではないか。私もなるほどと納得しました。このようなオランダ系移民アフリカーナのグレートトレッキングがあり、そして後から入植してきたイギリスとの間でボーア戦争が勃発します。当初、イギリスは内陸へ興味を示さなかったが、やがてダイヤモンドや金など希少金属の産出が分かると、急に内陸への関心が高まります。そこで、ボーア戦争を起こし、イギリスは勝利します。そして、幾つかあった国／自治州をまとめて「南アフリカ連邦」を建国(1910年)します。



そして、第二次世界大戦も終了し、アパルトヘイト（人種隔離政策、1948年制定）を国是とする国民党が政権を握ります（1948年）。この国民党は、開拓者であるオランダ人を祖先に持つアフリカーナを支持者とする白人至上主義を標榜する保守政党でした。

このアパルトヘイトは、とにかく白人(white)と黒人(non white)が一緒にいてはいけない、結婚（異人種間結婚禁止法）はもとより男女の付き合いまで法律で禁止されるほど非常に厳しい法律（注釈；他にも、白人と黒人労働者の職種と人口比率を定めた、最初の人種差別法である鉱山労働法、居住区域を定めた原住民土地法、公共交通や公共施設使用を隔離した施設隔離留保法など、また選挙権も剥奪された）でした。この図はアパルトヘイト下での警告標識ですが、このビーチでは白人だけが使用できる旨が書かれてあります。後に大統領となるネルソン・マンデラ（ANC＝アフリカ民族会議議長＝当時）が収監されたのが1964年で、その後

1990年まで収監は続きます。その後の1976年にソウェトでの蜂起を発端に黒人解放運動は全国規模に拡大し、やがて、このアパルトヘイトは世界へと伝えられ、世界からも反アパルトヘイト運動がおこるようになります。

そして、ソウェト蜂起以降、徐々にアパルトヘイト諸法は廃止されるのですが、1991年からより一層廃止の流れが加速します。そして、1994年に全人種が参加する選挙が行われ、

ネルソン・マンデラが大統領に選ばれます。1994年のごく最近の出来事ですが、アメリカワールドカップが行われ、Jリーグが始まった翌年です。最近まで、歴史の教科書に載るような激動があった国が、南アフリカです。

また、この国は、様々な人種／民族が混在しています。常に、人種と民族の事を考えなければならぬマルチカルチャーな国です。

さて、ここで南アフリカ国旗を見ていただきたいと思います。

この国旗は1994年にネルソン・マンデラが大統領に就任し、新たな国づくりを目指し制定された新しい国旗です。



私は国旗オタクでもあるのですが、アフリカ諸国の国旗は色が混在し、收拾がついていない国旗は多いと感じます。なぜなら、アフリカ諸国は1960年代の植民地解放後に独立したからです。独立し、新国旗を考えた時には、例えば「青・白・赤」や「緑・白・赤」など良い配色は既に他国で使用されており、そのため、アフリカ諸国の新国旗は色の配色に苦労

をします。その中で南アフリカ国旗も六色使用しています。「緑・黄色・赤・青・白・黒」と六色も使用し綺麗にまとまっているのは、実にすばらしいコンポジット（組み合わせ）だと思います。この配色は、この国がマルチカルチャーな国だと表す素晴らしい国旗だと思います。

国土は日本の約三倍で、人口は日本の約1/3の五千万人と広い国土を有する国です。一人当たりのGDPは日本の約1/8（2009年度）ですが、日本以上に凄まじい格差社会です。富裕層は大邸宅に住み別荘も持ち、ヘリコプターまで持つ人もいる一方で、貧困層はアパートヘイト時代の黒人居住区であるタウンシップでその日暮らしの生活をしている。ガス・水道・電気といった基礎インフラもない旧居住区に住む人はたくさんいます。ですから、単純に日本と比べて1/8の一人当たりGDP差ではないのです。

公用語は、11ヶ国語です。よく使われているのは英語、アフリカーンス語、ズールー語で全国民が日常的に使用し、他にもソト語、ツワナ語等の民族の言葉も公用語として認められています。ですから、国民の教育水準は低くても、タクシーの運転手は3ヶ国語を喋りますし、すこしたどどしい英語でも十分会話でき、ここにもマルチカルチャーの側面が見られます。

南アフリカのサッカーですが、FIFAランキングは58位（2010年9月）で日本は30位です。今回のワールドカップをアフリカで開催するには、いろんな意味で南アフリカしかないと考えますが、サッカーはあまり強くありません。それでも、グループリーグを突破が

期待されましたが、ワールドカップ参加国で南アフリカ（2010年5月時点で83位）よりFIFA ランキングが低いのは北朝鮮（105位）しかなく、ニュージーランドは南アフリカより上位（78位）です。このため、今回は南アフリカ代表がどこまで勝ち残れるのか懸念されていましたが、残念ながら主催国として初のグループリーグ敗退となりました。

ここで、南アフリカの人種に目を向けてみたいと思います。例えば、ダーバンはインド洋に面した都市で日本代表も試合をしましたが、この街には国内最大のインド人コミュニティーがあり、ここで食べたカレーは絶品でした。このインド人たちは、宗主国であったイギリス人たちが植民地建設の為に連れて来たり、出稼ぎの為にインドから渡ってきた世代が何世にもわたって暮らしています。マハトマ・ガンディーもここで弁護士修行をしましたし、また現在においては携帯電話を売っていたのはほとんどがITに強いインド人でした。一方で、一言で黒人といっても、様々な民族がいます。例えば、ンデベレ人の女性は胸にカラフルな刺繍をつけています。ソト人はもともと高地に住んでいて、頭に三角形の帽子をかぶっています。アフリカにはレソトという国がありそこはソト人で構成され、その国旗には帽子の絵が描かれています。

現在のズマ大統領はズルー族で、ネルソン・マンデラ元大統領は黒人の中でも肌が明るいコサ族の出身です。我々アジア人から見れば民族の差は判別できませんが、ヨーロッパで言うと、スラブ系とラテン系ほどの違いがあります。私は現地に入ってから、黒人の間にも外見のみならず文化や習慣の違いがある事を実感しました。

また、とある香辛料のお店に入った時に大勢のムスリムの人々を店内で見かけましたし、街中にもモスクはあり朝の5時頃にアザン、イスラム教の礼拝への呼びかけの音が聞こえてきて、ここは一体どこなのかと驚きました。仏教寺院は見当たりませんが、他にもギリシャ正教やユダヤ教会のシナゴグ、カトリック、プロテスタントの教会と、宗教にも寛容です。ある意味で、同じマルチカルチャーなフランスやアメリカより、言語や宗教、文化などを容認している国だと感じました。ただ、それはアパルトヘイトという暗い時代があったからだと思います。

このアパルトヘイトというのは、われわれ日本人からすれば遠い国の出来事として実感は少ないと思います。しかし、日本人は南アフリカから「名誉白人」という不名誉な称号を与えられました。ですから、アパルトヘイト時の日本人は現地で良い待遇を与えられた為か、なかなかアパルトヘイトの問題に敏感になれなれず、実感もなかったのでしょう。

何故、南アフリカはアパルトヘイトにこだわったのかは一言では説明できませんが、一つの理由は支配者の白人は黒人に比べて少数派だからです。人口比で黒人8割：白人2割でした。また、白人と黒人の混血が生まれることで、白人がさらに少数派へなることに抵抗があったのでしょう。

ワールドカップ期間中に宿泊していたB&B (bed and breakfast) の管理人の女性は「60

年代くらいまではアパルトヘイトをあまり意識しなかった」と言い、こちらとしてはかなりびっくりしました。どういうことかという「タウンシップでの黒人の生活がそこまでひどいとは知らなかった」からです。それほど、白人を守るために生活圏から黒人を隔離し、情報も封鎖した。メイドや清掃業の労働者として黒人が白人居住区に来て、白人は黒人居住区の実態を知らない。白人たちは、1976年のソウェト蜂起まで黒人の過酷な状況での暮らしの実態を知る事はなく、そのためアパルトヘイトに特別な意識はなかったと言えます。もし、白人が黒人の状況を知れば、白人の中にもアパルトヘイト反対論が沸いたかもしれませんが、黒人の状況を見せずに巧みに両者を完全に隔離した恐ろしい政策でした。

当然、このアパルトヘイト問題はスポーツ界にも影響を与えます。



この写真は、アパルトヘイト後の代表的な写真の一つで、1995年南アフリカで開催されたラグビーのワールドカップで初出場の南アフリカが優勝し、ネルソン・マンデラが主将のフランソワ・ピナールに優勝トロフィーを渡している写真です。「インビクタス／負けざる者たち」という映画をご存じの方も多いでしょう。マンデラ大統領（当時）も選手と同じスプリングボックス（南アフリカラグビー代表の愛称）と同じジャージを着て祝福しています。



その翌年（1996年）のアフリカネイションズカップも南アフリカで開催され、こちらも南アフリカが優勝しました。そして、マンデラ大統領（当時）は、サッカー南アフリカ代表のジャージを着て、表彰式に参加しています。

このように、スポーツの快挙、ナショナリズムの高揚によって国が一つにまとまる事は、当時のマンデラ大統領も政治的に求めていた事だと思います。この二つの優勝は、後のマンデラ政権を支えるために重要な要素になったかと思います。

が構成されていました。

そもそも、南アフリカのスポーツは白人と黒人で明確に分けられ、サッカーも白人のみで代表チームが構成されていました。

しかし、1961年にFIFAが白人のみの代表チームでの国際試合を禁止します。



南アフリカのオリンピック参加は1960年のローマオリンピックまでは選手団を派遣していましたが、1964年の東京オリンピックへはアパルトヘイトを優先し、IOCに参加を禁止されます。FIFA や IOC などの国際団体からのアパルトヘイト撤廃要求を拒否したため、国際大会への参加機会を奪われ、この禁止措置は1988年のソウルオリンピックまで継続されます。

そして、同64年にはFIFAから国際試合禁止の通達を受けます。

ついに、1974年には南アフリカ協会はFIFAから除名されます。

1991年のアパルトヘイト撤廃を受けて、1992年にFIFAに再加盟し、同年のバルセロナオリンピックにも参加が認められました。

そして、先ほど述べたとおり、1995年にラグビーワールドカップを自国開催し優勝、96年にアフリカネーションズカップも同じく自国開催で優勝します。そして、1998年のフランスワールドカップに初出場し、2010 FIFA ワールドカップ 南アフリカを開催するに至ります。

このアパルトヘイト期間中は国際大会や対外試合を禁止された為、南アフリカのラグビーもサッカーも競技レベルが落ちました。それを取り戻そうとしたのが、90年代以降の南アフリカです。

そして、ようやく2010 FIFA ワールドカップの話になります。



ここであらためて、今大会の開催地を見てみたいと思います。

日本の三倍の面積がある南アフリカはスタジアムが各地に散り、取材する側からすれば移動、アクセスしづらい大会でした。取材陣はヨハネスブルク近郊に宿泊拠点を持ち、ブルームフォンテンまで車で六時間、頑張ればダーバンまで行けたかもしれません。ただ、海沿いの街に関しては、ほぼ飛行機での移動でした。

また、今大会で特徴的なのが温度差と高低差です。ブルームフォンテンなどは高地

で、空気が薄い。一方、ダーバンやケープタウンは低地で、しかも昼間は暑いく、私は気温差には苦しみました。南アフリカは冬ですからヨハネスブルクの夜の試合などはガタガタ震えながら試合を見ました。また、宿でも電力不足の為に各家庭への電力割り当てが限られ、電気ストーブがなかなか暖まらず寒かったです。逆に、ダーバンに行くと気温が一気に20℃以上に上昇し暑さを感じるなど、気温差は大きかった。この環境の変化は、選手にも少なからぬ影響を与えました。

今大会は、懸念材料が多い、ある意味、不安だらけの大会であったと思います。

まずは「運営経験の不足」です。アフリカはルーズでいい加減というイメージが先進国側にあり、本当に円滑に運営できるか不安視されました。世界中から32カ国もの国が集まる世界最大のスポーツ大会を本当に行えるのか、運営能力そのものへ不安がありました。

また、治安面でも不安を感じる情報があり、施設建設の遅れもあった。建設労働者のストライキなどで、本当にスタジアムや周辺施設が本大会に間に合うかも懸念されました。

加えて移手段の不備です。特に、ヨハネスブルクでは鉄道は犯罪の巣窟で使用できず、流しのタクシーも乗降時に犯罪の危険があるため、ホテルからきちんとタクシーに乗るか、レンタカーで移動するしかない状況でした。さらに、宿泊施設の客室数が本当に足りるのか、という問題もありました。

このように、大会前は様々な問題点や不安が指摘されていました。

では、本大会ではどうだったか、大会を通して滞在してきた自分の目を通じて採点してみたいと思います。

まずは、大会運営。

例えば、メディアはADカードを持つとスタジアムへアクセスできるが、試合を見て取材するにはメディアチケットが必要です。日本代表の試合を取材する自国の日本人メディアには100%チケットが支給されます。しかし、例えばブラジルやアルゼンチン、イングランドなど人気のある試合では、**waiting list**に登録して、FIFAからの割り当てを待ちます。

この手続きはキックオフ1時間前に行われますが、大会当初は大勢の取材陣を前にマイクも使わず名前を読み上げるが聞こえないため、取材陣にはストレスがたまり爆発寸前でした。また、例えば、幾つか列があり20分ほど並び自分の番になると、受付スタッフが「この列はA-Iまでの国名で、日本人記者はJapanだから隣の列で」と言われ、それならそれで事前に告知しろよ、と。こういう初歩的な運営すらできていなかったのです。

ところが、徐々に大会が推移するうちに、どうすれば円滑に事を運べるのかを学習し、改善が見られ、大会の中盤を過ぎると**waiting list**の順番待ちもスムーズになりました。

運営に関して、私の採点は75点をつけたいと思います。

上記の通り、大会序盤はかなりの混乱がありましたが、彼ら自身が成長していく姿が目に見えました。また、アフリカの人々は常に笑顔を絶やさず、またホスピタリティあふれる人たちだという印象を受けました。例えば私が記者席を探していると、気を利かせて席まで誘導してくれて、最後に“**have a good game**”と行って去って行かれるなど、彼らの朗らかさや親切心はピリピリしていた取材陣からすれば心地の良いものでした。

そして、彼ら自身は先進国などからの「本当に運営できるのか」というまなざしに対して、「やってやろう」という高いモチベーションがありました。開催国南アフリカで空気がガラッと変わった瞬間、それは、南アフリカがグループリーグで敗退した時です。南ア

リカ代表が姿を消した後に、この大会は本当に成功するのかどうか皆が不安になりました。その時に、この大会に携わる全ての関係者が、この大会を自分たちの手で成功させようと奮起します。大会スタッフ、ボランティアだけでなくレストランや宿泊施設などでも大会の成功に向け努力しようと。また「アフリカでもできる」という熱意を感じました。そのためか、取材陣の間でもアフリカにしては良くやったという評価が多かったです。

次に競技施設についてです。

競技施設を採点すると、80点をつけられる程、素晴らしかった。

ほとんどのスタジアムは既存のスタジアムを使用しました。南アフリカはラグビーが盛んで、そのラグビー場をワールドカップ用に改修して使用しました。従って、外見は古いが、球技専用スタジアムであるため非常に観やすかったです。

対照的に、2002年の日韓ワールドカップでは新設スタジアムが建設されたが、その後の顛末は様々です。例えば、日本であれば浦和や新潟、大分などでは会場が新設されたことにより新たなサポーターを呼び込み、サッカー文化を根付かせる一因になった。しかし、そうでないスタジアムも、韓国はもっと悲惨な状況です。従って、ワールドカップの為に新設スタジアムを建設するなら、大会後の利用計画も必要でしょう。

この点、南アフリカは4つ（サッカーシティスタジアムは新設のようだが実は改修であり厳密には3つ）の新設スタジアムを建設しただけで他は、ラグビー場を上手く改修し、コストパフォーマンスの高いスタジアムを実現させました。

一方で、ケープタウンや日本対オランダ戦があったダーバンのスタジアムは新設で完成度は高いのですが、これらの新設スタジアムは大会後の活用方法は未定です。両市にはサッカーやラグビーチームはあるのですが、各チームとも既にホームスタジアムを持っており、現在のところ新設スタジアムの今後は未定。既決の予定は、コンサート会場や代表戦の開催だけです。しかし、南アフリカは夏季オリンピックの招致を検討しており、過去にはケープタウンが立候補し、今後はダーバンも立候補を検討しています。2012年のロンドン、2016年のリオデジャネイロ、欧州と南米大陸で開催したなら次はアフリカだと考え、ダーバンの新設スタジアムも活用されるようです。

従って、新設スタジアムの今後に不透明感があるにせよ、80点は妥当だと思います。

次に、交通と宿泊についてです。

ブルームフォンテンからヨハネスブルク間は、まるでアメリカのフリーウェイのように整備され、地平線が見えるようなハイウェイを走りました。南アフリカは車社会で、車なしでは移動できない状況です。現地ではレンタカーを二台借りて、6名の取材陣は移動していました。

また、我々取材陣はヨハネスブルク近郊のB&Bに滞在しました。このB&Bの窓枠には鉄

格子があり、また番犬を飼うなどセキュリティ面は配慮されていました。

採点すると、70点でしょうか。合格点でしょうか。

先ほど述べましたが、公共交通機関は使用不可能なため、移動のコストが高くなります。

レンタカーかタクシーかという車社会ですから、移動のハードルは高いです。

宿泊施設数は確かに少ないですが個人経営のゲストハウスもあり、ベッド数は足りており快適でした。代表クラスが宿泊するホテルでも盗難騒ぎが報道されましたが、逆に家族経営のお互いの顔の見えるゲストハウスの方が安全かもしれません。

次に、最大の懸念事項でした治安の点です。

私は移動の関係でどうしても見たい試合を見られず、パブリックビューイングに参加しようと考えました。ドイツ大会では何度も足を運びましたが、南アフリカ大会では躊躇しながらも実際に行ってみると、周りの人々は明るく親切に対応してくれて、あちこち屋台もあり、警備員も多数配置されるなど、パブリックビューイングを楽しむことができました。

ただ、治安面を採点すると、55点です。

確かに、政府は今回の大会の警備に警官、監視カメラを増やすなど16億ランド（日本円で約180億円）支出し、国家の威信をかけて対策を打ちました。ただ、特にヨハネスブルクは危険だと言われていたが、治安が悪い地域にさえ立ち入らなければ、基本的に過度に心配する必要はありません。この事は他のどの国に行っても言えることです。世界の大都市には、旅行者が絶対に入ってはならない地域はあるわけですが、事前に情報を把握し近付かなければ、通常に警戒していれば安心して移動できます。その点、南アフリカも同様です

本大会期間中は幸いにも強盗致死や誘拐などの凶悪犯罪はなかったが、窃盗などは多発しました。日本人のカメラマンも窃盗の被害にあったと報道され、現地でも耳にしましたが、本当に悪条件が重なって起きた事件です。私が聞いた話では、日本対カメルーン戦後の夜に宿まで3名、徒歩での移動時に集団からはぐれ、一人で歩いていたそうです。警備の手厚い中心部から離れ、初めて訪れる所をさまよい、また大きなカメラ用具を持って歩いていたため、窃盗集団から狙われました。今大会は残念ながらカメラ、PC、通信機器を持ったメディアが犯罪者に狙われ、また、プレスセンター内でも窃盗事件が発生しました。

凶悪事件は無かったものの、無数の窃盗事件が発生していたため、辛目の採点です。

ここで、日本ではあまり放送されていなかった映像だと思いますが、今回のワールドカップの公式ソングでShakiraの「Waka Waka ワカワカ/This Time for Africa」を見ていただきたいと思います。（脚注：FIFA official siteでも見ていただけます。

<http://www.fifa.com/worldcup/officialsong/video/index.html>

「waka waka」とはスワヒリ語で「here we go! 行ってみよう!」という意味。歌っているシャキータはコロンビア出身の歌手で、アフリカらしさは曲の中にも出ています。ここで

はスワヒリ語がポイントです。南アフリカの公用語にスワヒリ語はなく、主にアフリカ東部の言葉です。この大会は南アフリカだけの大会ではなく、アフリカ大陸全体の大会なのだという意味が込められています。また、マスコットにはザクミ(zakumi)と名付けられ、「za」は南アフリカのドメイン名で、「kumi」はNo.10を意味し、2010年の10を指し、これもスワヒリ語です。つまり、「アフリカでの2010年の大会」というのが、今回の重要なコンセプトでした。ホスト国は南アフリカだが、アフリカ全体で行われる大会だと強調しています。

ここで、今大会が南アフリカにもたらしたものを考えてみたいと思います。

南アフリカ国民はどこでも自由に住めますが、貧困層はタウンシップに住まざるを得ない状況です。そのタウンシップの一つであるソウェトもサッカーシティスタジアムのすぐ近くにあり、多くの人々がサッカーを見て大騒ぎしているすぐ隣で貧しく暮らしています。何が南アフリカにもたらされたのかを考えると、一番わかりやすいのは経済効果とインフラ整備でしょう。経済効果は間違いなくあり、インフラも整備されました。

ただ、一番大きな収穫だと思う点は、ワールドカップを成功させたことで、アフリカが持っていたポテンシャルを世界に示すことができた点です。これまで、アフリカ諸国は先進国などから援助を受けてばかりいたが、今回の成功で実は自分たちでもやればできる、南アフリカ／アフリカが本来持っていた力を世界に示すことができた。この点は、インフラや経済効果以上に重要な事だろうと思います。

一方で、タウンシップなどに住む貧困層がどれだけ大会に参加できたかは課題です。今大会も当初、チケットはインターネットで販売されていたが、売れ行きが芳しくなく、大会直前には店頭で販売され、また3-4千円台のチケットも新たに発売された。それでもチケットを買える層は限られて、どれだけの国民がワールドカップの恩恵を受けたかという点は貧富の差の影響がありました。

また、今大会は世界に何をもたらしたのかを考えてみたいと思います。

先ほど述べたとおり、先進国側からの「貧しいアフリカ」というネガティブなイメージは今大会を通じて払拭されたかと思います。

一方で、アフリカは多様で、また南アフリカも多文化で格差も大きいなど多様性を感じられます。前回の共和党副大統領候補であったサラ・ペイリンは、アフリカという国があると失言をしたニュースを見たことがあります。アフリカの多様性やそれを見ようとしない姿勢、先進国の驕りが背景にありました。それらの偏見は、今大会に参加することで払拭されるでしょう。今回、初めてアフリカを訪れた世界中の人々がアフリカに何をもたらすのかについては、もう少し時間をかけて観察が必要でしょう。日本からも千人単位で南アフリカに行かれましたが、その方々は今後どのように展開してゆくのかは興味深く見てみたいと思います。

最後に、この大会を私なりに総括すると、アフリカでワールドカップを行うという壮大な実験だったと思います。だれも思いつかなかったことであり、ホスト国南アフリカに暮らす国民にとっても、また南アフリカを訪れた人々にとっても幸福な大会であったと思います。閉会セレモニーの中で、ピッチをスクリーンにして様々な映像を上から流していたが、最後に様々な国の「ありがとう」という言葉、例えば **danke** (ドイツ語)、**grazie** (イタリア語)、**thank you** (英語)、もちろん日本のありがとう、これらをちりばめた非常に美しい映像でした。この「ありがとう」は、南アフリカの方が外からやってきた者に対してのありがとうであったと同時に、訪れた側からの南アフリカへのありがとうでもあったと思います。それほど、今大会は幸せな大会でありましたし、最初から最後まで大会に参加できた私自身も、幸せ者だと思います。

そのような南アフリカ大会でありました。

私からのプレゼンテーションは以上です。ありがとうございました。

## 質疑応答

本多：ありがとうございました。

では、南アフリカに行かれた参加者の方に一言コメントをいただきたいと思います。

高原：私は大会が始まって一週間ほど滞在し、日本対カメルーンや南アフリカ対ウルグアイなどを観戦しました。宇都宮さん同様、私が動いた範囲では治安に関して脅威を感じませんでした。それが一番の懸念事項で、6月になるまで行くかどうか迷っていましたが、見える範囲では大丈夫でした。ただ、私はプレトリアのホテルの近くで行われていたパブリックビューイングの会場は、事前に危険な地域との情報を掴んでいたのも、怖くて行けませんでした。もし参加できれば、今まで見えなかったものも見えていたのかもしれませんが。ただ、南アフリカ対ウルグアイの試合で南アフリカのシャツを着た隣の席の方は「スクラムや、スクラム」と、ラグビー好きの国らしい発言をされていました(笑)。

メイブリー：私は8日間ほどヨハネスブルクに滞在していました。現地で二年ほどサッカーと社会について研究している友達に街中を案内してもらっていました。サントンではない別の黒人居住区に滞在しました。他の黒人居住区よりは裕福な地区ではありましたが、それでも日本の基準で考えるとかなり貧しい生活状況でした。現地の方は、サントンは裕福な居住区で本当の貧困街ではないから行かない方がいいと言っていました。現地では試合ももちろん面白かったのですが、一番興味深かったのは、現地の人々の温かい心遣いでした。心から歓迎してくれて、一人でいると一緒に乾杯しようよと話しかけてくれるなど、温かい人が多かったです。ただ、問題として今後どうなるという点で、現在は人種隔離が

ら人種（国民）統合へと移行中ですが、ワールドカップ期間中は南アフリカ代表と共に団結したと思いますが、終了後は貧富の格差や民族間の多様さのバランスが取れるのか、心配しています。

本多：南アフリカへ行かれた方は・・・お二人だけですか。

では、ここからは質疑応答の時間とさせていただきます。

参加者：私はテレビ観戦だけですが、少し気になったのがピッチ状態の悪さです。テレビではピッチとスタンドだけでしかワールドカップを判断できませんが、その芝生管理は、言い方が悪いのかもしれませんがアフリカ基準かと感じましたが、現地ではその点について問題にしていたか？

宇都宮：ピッチ状態は確かに悪かった。サッカーシティスタジアムもそうでしたし、他の会場でも芝がめくれているシーンを目にしました。私は芝生の専門家ではないので正確にはわかりませんが、元々ラグビー専用のスタジアムを改修したので、ラグビーとサッカーでは芝の種類が違う為、あるスタジアムはサッカー用に芝を張り替え、別のスタジアムはサッカーとラグビー用の芝を混ぜて敷き詰めたとの事です。そのノウハウを上手く活かさなかったと思いました。ラグビー用の芝でワールドカップを行ってもと思いましたが、やはりプレーすると違う、例えば芝の太さなどが違うそうです。ただ、今回のワールドカップは冬の大会なので芝生の状態も良いはずでした。

参加者：どうしても新しく芝を敷くと、芝が根付いておらず、初めは状態が悪いです。日本でも芝生を張り替えると、根付くまで時間がかかります。

宇都宮：また、サッカーシティスタジアムは今大会で 7 試合ほど使用した為、酷使したとも言えます。今大会は会場の稼働率にばらつきがあり、ネルスプリットとポロクワネが 4 試合と新設スタジアムであったのに稼働率が低く、対して、ポートエリザベスとケープタウンが 8 試合と、酷使されすぎて芝を養生できなかったのかもしれませんが。

参加者：プレゼンは記者目線や運営問題が中心でしたが、格差があるにせよ、現地の人々は本当にワールドカップを楽しめたのか？また、意義あるものだったのでしょうか？

宇都宮：間違いなく言えることは、各スタジアムに多くの観客が集まり、消費していました。我々が 2002 年に経験したことを、南アフリカの方々も経験されたと思います。ただ、現地の方々の満足度までは調べていませんが、自分が見た限りでは楽しんでおられたと思います。

参加者：スタジアムに来ていたのは、富裕層が多かったのですか？

宇都宮：スタジアム建設に関わった労働者は貧しい労働者ですが、彼らにチケットを配布したと聞いたことはあります。

参加者：南アフリカのサッカー熱は、例えばブラジルと比べると、どのようなものですか？  
宇都宮：残念ながら、一度も国内リーグを見ることはできませんでした。一つヒントになるのは、南アフリカでは「football」と言わず、アメリカやオーストラリア、日本のように「soccer」と言います。「soccer」という国は、サッカーが No.1 スポーツではない国です。間違いなく南アフリカで No.1 スポーツはラグビーやクリケットであり、サッカーではありません。もっといえば、ラグビーはイギリス系住民のスポーツ、クリケットはインド系住民のスポーツ、そしてサッカーは黒人が最も好むスポーツです。ここは、アパルトヘイトや白人至上主義の影響で、ラグビーが最も注目され価値のあるスポーツで、サッカーは大多数の貧しい黒人がするスポーツとのイメージが強かった。街に行けば、子供がサッカーボールで遊んでいる光景は見かけ、国内リーグの人気を二分するカイザーチーフスとオーランド・パイレーツの試合は盛り上がると聞きます。ただ、先程のケープタウンやダーバンのスタジアムをサッカークラブが使用する予定はないと聞くと、やはり 5 万 6 万人も観客を集めるリーグではないのでしょう。

参加者：マンデラ元大統領やズマ大統領が収監されていたロベン島の刑務所で囚人たちがリーグ戦を始め、サッカー協会を設立したと聞いたが、参考文献などあれば教えていただきたいのですが。

宇都宮：実川元子さんが翻訳された本ですね（注釈：実川元子 訳 「サッカーが勝ち取った自由—アパルトヘイトと闘った刑務所の男たち」白水社）。ロベン島に収監された囚人たちがサッカーをさせてほしいと願い出、環境作りを始め、リーグ戦を開催し、最終的には FIFA がサッカー協会の設立を認めるという何ともおとぎ話のような史実で、南アフリカ国内でもベストセラーになったそうです。

参加者：私はその元川さんの本を読んだのですが、恐らくマンデラ元大統領やズマ大統領はその収容所での経験から、ラグビーやサッカーの影響を知ったのでしょうか。一方で、同じアフリカの中でも、リビアのカダフィ大佐は「FIFA は人身売買で儲けた金をアフリカに還元しろ」などと言っているようですが、同じアフリカでも政治的にも多様ですね。そこで、このワールドカップでも各国から圧力などはありましたか？

宇都宮：質問に答えになるかどうか分かりませんが、南アフリカは結局グループリーグで敗退し、アフリカ諸国もグループリーグで敗退しました。私はアフリカ有利な大会と予想していましたが、ガーナはベスト 8 まで進出しました。ウルグアイに劇的な PK 負けとなり、アフリカ初のベスト 4 とはなりません。しかし、間違いなく言えることは、ガーナはアフリカの星という扱いで、アフリカ国内の方、その中でも白人も黒人も関係なく、またアフリカから観戦に来ていた人すべてがガーナを応援していました。ここで思い出されるのは、2002 年の日韓ワールドカップで日本が先に負け、韓国がベスト 4 まで進出しました。その時に、日本も韓国を応援しようという報道があった時に反発する人は結構いて、



自分も反発しました。いくら共催だからといって、ライバルである韓国の応援をメディアが強制するのはお門違いだと、今もそう思っています。一般に隣国同士の仲はあまり良くないと思うのですが、今回のアフリカの場合はむしろ「アフリカは一つ」という熱意が非常に感じられました。ガーナが勝ち残った時、南アフリカにいたアフリカの人々はみな、ガーナを応援し、逆にウルグアイは悪役になり、わざとハンドをしたスアレスなどはひどいブーイングを浴びヒール役になった（笑）。

この大会は南アフリカのワールドカップのみならず、「アフリカのワールドカップ」をコンセプトにした事によって、南アフリカが敗退した後もガーナを応援できた。そして、ガーナはアフリカの代表として頑張る事が出来た、そういう大会だったと思います。

参加者：現地に行かれら方は口々に「ホスピタリティがあった」「温かな人が多かった」などピッチ外で受けたインパクトがあったと仰っておられましたが、日本代表を含めピッチ内で受けたインパクトと比べてどちらが強かったですか？

宇都宮：日本代表がベスト 16 に進出するとは、微かな期待があったものの、日本がデンマークに 3-1 で勝ってグループリーグを突破するとは、どんなに楽観的であっても考えられませんでした。そういう意味では、インパクトの強い大会でした。

ただ、南アフリカに渡航した何人もの日本人サポーターの方ともお話をしましたが「おれたちは勝ち組だね」と喜んでいました。また別の意味もあって、サッカー以外の素晴らしい経験もできたと。渡航前は怖い危ないと言われてきたが、実際には素晴らしい体験ができて、それを日本に持って帰る事ができた人がほとんどだと思います。

なかなかアフリカに行く機会は無いわけだし、距離的にも意識的にも遠い国です。サッカーの内容だけでなくサッカーを取り巻く環境を知ることができたのも、本大会の素晴らしい経験でした。

参加者：今大会は日本代表にとって、ホームの様に戦いやすかったのか、アウェーの環境だったのか、どちらですか？

宇都宮：良い質問です！間違いなく言えることは、暑くなかった点が最も重要な点だと思います。私は、ドイツ大会は暑い昼間に試合をするなどアウェーだったと思います。ただ、今回は日本の素晴らしい準備によってホームに近い状況で試合を行えたと思います。その一つは、高地対策です。スイスの合宿にも行きましたが、日本ほど高地対策を行っている国ヨーロッパにもなかったと聞いています。オランダは決勝まで行きましたが、高地で試合をしたのは初戦のヨハネスブルクでのデンマーク戦だけで、あとはずっと低地でした。彼らは、グループリーグを一位で抜ければ、あとは低地で戦えるという計算の上で大会に臨んだようです。逆に、デンマークなどは高地対策が十分でなかったように感じました。

その中で日本の高地対策は、合宿地の高度が 32 か国中一番高地で練習をしていたそうです。

人口2千人が暮らすスイスのサースフェーで日本代表は合宿し、フィジカルコンディションはもとよりボールの飛び方や平地との違いを選手は体感することができた。このような準備が出来たからこそ、南アフリカではホームの様に戦えたと思います。また、南アフリカでは日本の戦いを好意的に見る人が多く、特に遠藤や本田が決めたフリーキックは、まさに日本の技術力と準備の真骨頂だと言えます。そういう意味でも、日本代表は良い状況の中で試合を進められたのではないのでしょうか。

参加者:2018年と2022年のワールドカップ開催地が12月に決まる事になると思いますが、それに合わせて、梅田の北ヤード(旧貨物基地)にスタジアムを新設するという話がメディアから伝わってきます。今回のワールドカップでも新設のスタジアムを建設しても大会後の活用法を考えなければならない、というお話でした。そこで、サッカー専用スタジアムを大阪駅前に建設するという案は個人的には興味があるのですが、宇都宮さんはどのようにお考えですか？

宇都宮:逆に質問ですが、ガンバ大阪の新スタジアム建設の話はどのような状況なのでしょう？

参加者:ガンバはガンバで独自に建設する方向のようです。

宇都宮:そのガンバのスタジアムはどこに建設されるのでしょうか？

参加者:万博公園内、と聞いたことがあります。

参加者:まだ、方向性は定まっていないようです。梅田は国立の新スタジアムになりそうです。

宇都宮:国立ということは、特定のクラブがホームタウンとするのはまずいということですね。何万人収容と想定されているのでしょうか？6万？

参加者:8万人です

宇都宮:8万か、凄いですね。大阪の新スタジアムは2022年招致の目玉の一つだと聞いていますから、天皇杯の決勝は大阪で・・・(笑)。確かに、サッカー専用の球技場が出来るのは素晴らしいですし、是非見てみたいのですが・・・でもどうでしょうね・・・。ガンバで8万人は厳しいですか(笑)。

本多:2022年招致の夢のある話も出たところですが、今夜はこれにて終了です。宇都宮さん、ありがとうございました(拍手)。